

巡検・セミナー開催のご案内

■ 冬の巡検は中央線「猿橋」! (12月1日(土曜日))

テーマ: 「猿橋とその周辺(仮称)」

日本三奇橋のひとつ「猿橋」は、橋脚を使わずに両端から張り出した四層のはね木によって支えられている珍しい構造。橋と景観が調和していることから国の名勝に指定されています。安藤広重の「甲陽猿橋之図」も有名です。

日 時:平成24年12月1日(土)、定員20名先着順

集合場所・時間・コース:

8時54分:新宿発(中央線特快)~9時38分:高尾着

乗換:9時48分:高尾発(中央本線)~10時21分:猿橋着

展覧会情報

俳諧資料と江戸・明治の絵地図

会 場 本間美術館

電 話 0234-24-4311

期 間 6月20日~9月11日

mini地図NEWS

ロンドンの地下鉄路線図がうようよと動き続ける無料のスクリーンセーバー「LondonMetroMap」

ロンドンの地下鉄路線図マップにアニメーションを追加したスクリーンセーバーが「LondonMetroMap」です。Windows、Macに対応しています。

Free Screensaver - nfsLondonMetroMap

<http://newfreescreensavers.com/new-free-screensavers/info/nfslondonmetromap>



駅南口→パストラルびゅう桂台住宅地散策→猿橋駅北口
→郷土資料館見学(約30分)→猿橋→猿橋周辺で昼食
→県道505号→鬼の杖→百蔵橋→宮下橋→猿橋駅北口
15時:解散(猿橋駅) 15時25分東京行

どなたでも参加できます。

参加費:1,000円(予定・資料代)

参加希望の方は11月28日(水)までに03-3262-1486
かE-mail:edit@chizujoho.jp.orgまでご連絡下さい。

※次号ICICニュースは12月初旬発行のため、メ切りにご
注意下さい。開催前のご案内をお送りしますので、早め
の参加申込をお願い致します(キャンセル可)。

収蔵資料展 絵図と絵画

会 場 千葉県立中央博物館 大多喜城分館

電 話 0470-82-3007

期 間 7月12日~10月21日

再発見!鎌倉の中世

会 場 神奈川県立歴史博物館

電 話 045-201-0926

期 間 10月6日~12月2日

ロンドンの地下鉄マップは他にも3種類あり、スクリーンセーバーをダウンロードできます。ロンドンの地下鉄以外にもマップがあります。(GIGAZINE)

「環日本海諸国図」初の改訂、「環日本海・東アジア諸国図」となって掲載範囲を拡大

富山県は、日本海を軸に世界地図の南北を逆さまにした「環日本海諸国図」(通称・逆さ地図)を初めて改訂した。1994年作製の従来版では一部だった台湾の全土を載せたほか、中国南部は香港、広州まで、中国西部は西安、重慶までを表示した。北陸新幹線、東海北陸自動車道などの整備状況も反映した。

改訂版の名称は「環日本海・東アジア諸国図」で、縮尺は450万分1、大きさはB1判。

北陸新幹線は2014年度末の金沢開業をにらみ、地図上では一足早く金沢まで延伸した。

地図は県民会館(富山市新総曲輪)一階の県刊行物センターで販売中。税込みで一枚300円。(中日新聞)

地図絡み

第50回 地形図好きがようやく出会えた図

帝京大学理事 井口悦男

日本中、いや世界各地、地球表面の形そしてそこに暮らす人々の姿、形はそれぞれで、ひとつとして同じものは見られない。それを人の手で整理、省略し、記号化された地図は、陸地面積分存在する。さらに、縮尺の大小による図描内容変化も頭に入れば、無限に近づき、これに重ね作成年代相異図も考慮すれば、まさに無限の境となろうか。

一度地図に魅入られると、無限を相手とすることになる。これは、何も地図に限られたことではなく、好きなものは、いずれも無限の中をさ迷う作業となり、その覚悟で取って範囲を限定する強い意志が貴重となる。

ところで、目録の整備されている日本の正式地形図群では、すべて目通し可能である。しかし、地方版迅速測図群では、ごく部分的に目録しか知られていないから、その全体像不明のままとなる。

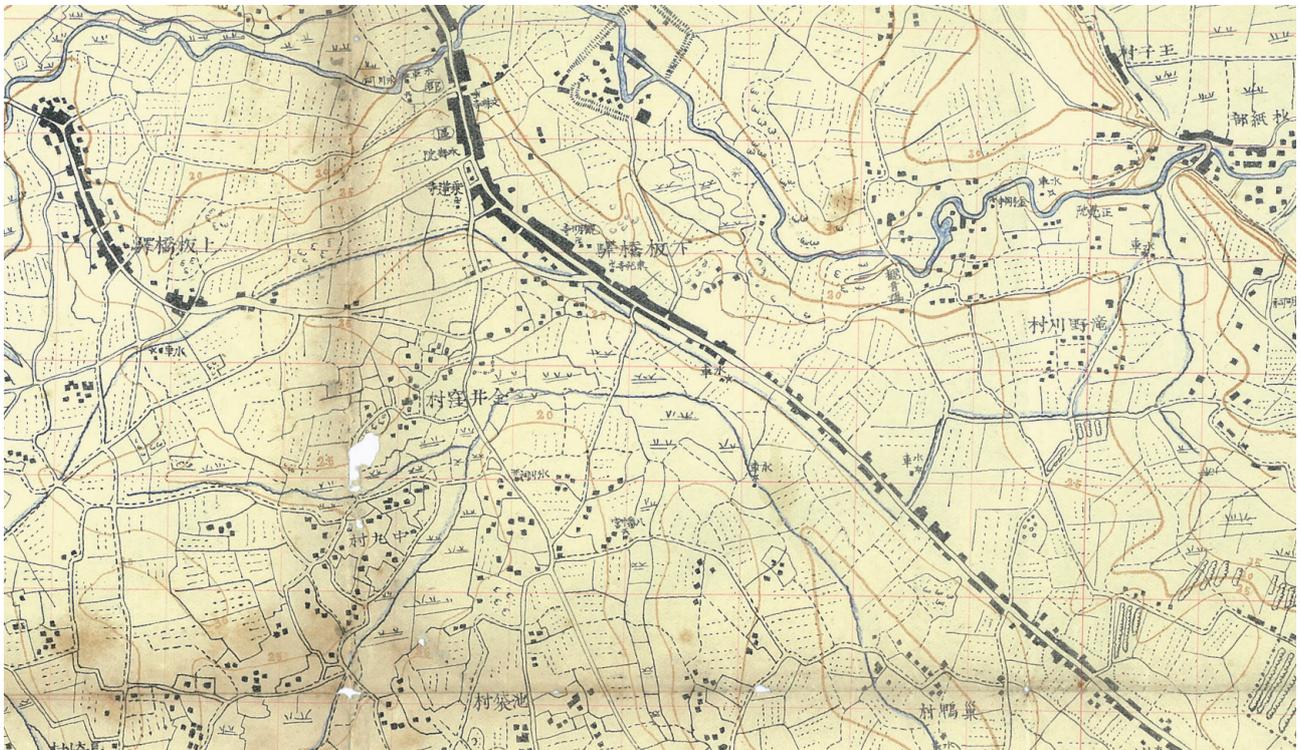
ごく一般的刊行図にあっても、図により発行部数、必ずしも一定でないためか、永年気をつけていても、一向に出会えない図がある。古本屋の一隅無造作に束ねられた戦前のくたびれた地形図の山を練るうちに、出会えたときは、天にも上れる思いであった。探し探し求めていた図が、当方へ出向いてくれたと。一方に、その道を30年以上歩み続けても、音沙汰無しもある。例えば、20万分1帝国図の初

版図のうち、なぜか「佐倉」(現、千葉)「東京」「横須賀」とは、なかなか出会えなかった。うち最初に地図束中、20万初期帝国図特有の褐色系山地の「東京」図名が目止まった折は、我が目を疑った。しかし、それ切りで、後の2面の図名に接することはなかった。東京在住者だけに、焦る思いがつきまとった。めでたく双方の図にも出会えたのは、最近のことである。帝国図以前のケバ式1色刷輯製図群中、「函館」「尻屋崎」を除いた北方の千島、北海道の各図を市場で見ること至って少ない。久しく待って、ようやく出会えた所でもある。

東京の一番真中の図、2万分1迅速測図の「麴町區」の初版、細やかな線描見事な図にも、周辺各図に触れても、なぜか手に取れない、明治の東京市街地は狭まかったせいか、演習用特定図郭に編集した、当時周辺農村域の板橋付近や新宿、渋谷を含む西部近郊コピー図が、版を重ね見られる場所である。歩兵第3聯隊の少々ボヤケ気味な同図郭による東京及周辺各図のコピー図が作成され、高崎、前橋辺では、第一版図名の採用で原図と区別できる。地域特定図描を加味した6面続きがある。

1万分1で、昭和18年局部修正の「成増」図が見られる。新設予科士官学校を描入した、当校依頼による作成図である。第2次大戦直後の戦災復興用都市図役の昭和22年発行の戦災復興院「成増」図で、軍学校名を省略した棟列群描がいやに目立つ部分がある。

(H24.8.03)



板橋近傍之圖 2万迅速 2色刷 上質薄紙(約2万7千分1に縮小)
東山道下板橋宿、川越街道上板橋宿を中心に、北は荒川、南は巢鴨、池袋、雑司ヶ谷辺までを、第1軍管地方図からコピーした図である。ただし、等高線茶、他墨のこの種の一般刊行図で全く知られ

ていない色刷で、かつ河川部分に水色を手書き描入し、一見3色刷かに見える。高貴の方が臨席する演習時特製図のためか、用紙も上等薄手紙による。年度、作成部注記もないが、東北鉄道も、荒川に鉄道橋予定線のみ記入する。明治15年前後か。